



The 41st Annual Meeting of the Japanese Society of Intensive Care Medicine

第41回日本集中治療医学会学術集会

イブニングセミナー6

重症病態急性期における

たんぱく質の意義

— 栄養管理の基礎と実践 —



日時

2014年2月28日(金)
17:30~18:30

会場

第4会場
国立京都国際会館
1F Room D

〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池

座長

兵庫医科大学 救急・災害医学講座

小谷 穰治 先生

演者

大分市医師会立 アルメイダ病院 麻酔科

岩坂 日出男 先生

重症患者栄養管理のコントラバーシー
— タンパク質投与の意義について細胞内から考える

藤田保健衛生大学医学部 麻酔・侵襲制御医学講座

西田 修 先生

集中治療領域における
蛋白投与の意義と栄養管理の実践

共催

第41回日本集中治療医学会学術集会
ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー



Nestlé Health Science
NOURISHING PERSONAL HEALTH



重症病態急性期における

たんぱく質の意義

— 栄養管理の基礎と実践 —

重症患者栄養管理のコントラバーシー

大分市医師会立 アルメイダ病院 麻酔科

タンパク質投与の意義について細胞内から考える

岩坂 日出男先生

重症患者では生命予後だけでなく、早期リハビリ開始など、将来の生活の質も考える必要があり、栄養管理も重要な管理項目の一つである。しかし、臨床上的問題として栄養投与開始時期、投与量など即答即断のできない問題がある。タンパク質投与も意義、効果について不明な点も多い。オートファジーは非特異的細胞内老廃物除去系でありアミノ酸はこの活性調節に関係する。低栄養の持続はオートファジー関連細胞死をもたらす。ラット肝虚血再灌流モデルの栄養管理ではタンパク質強化によりオートファジーの活性化を抑制し肝、筋肉重量を維持できる。また時計遺伝子の活性調節にタンパク質が関連している。さらに術前患者では筋肉量とBMIには相関関係が認められず、術前患者の半数はサルコペニアであった。サルコペニアはリハビリの障害となり、この改善にタンパク質の補充強化が意義をもつ。タンパク質投与の意義について基礎的知見から考察を加える。

集中治療領域における

藤田保健衛生大学医学部 麻酔・侵襲制御医学講座

蛋白投与の意義と栄養管理の実践

西田 修先生

集中治療領域での栄養管理の重要性は広く認知されてきているが、実践に際しては多くの問題点に対峙することも多い。また、大規模RCTでのエビデンスが別のRCTで覆される現象は栄養領域でも起きており、ここ数年の動きは特にめまぐるしい印象がある。それだけ関心が高く、多くの研究がなされていることの証でもある。高度侵襲下では、代謝亢進よりも異化亢進の程度が強く、単純飢餓と異なりエネルギー投与のみでは蛋白崩壊は抑制できないばかりか、過剰なカロリー投与の弊害も指摘されている。「如何に異化を抑え、同化を促すか」が、栄養管理における意義と工夫といえる。経腸栄養の有用性は確立しているが、最近の補足的静脈栄養に関するエビデンスから見ても、蛋白投与の重要性は投与経路に拘らず重要であることがわかる。本講演では、臨床の立場から、栄養管理における工夫と実践、および、症例を通して栄養管理における蛋白投与の意義について述べてみたい。